

## 早池峰地域への防鹿柵の設置結果について

令和 3 年 1 月 29 日  
岩手県環境生活部自然保護課

平成 30 年 3 月に開催された早池峰地域シカ対策部会における早池峰地域の高山植物をシカによる食害から守るための防鹿柵の設置提案を受け、平成 30 年度から東北森林管理局と連携して高山植物の群生地に防鹿柵を設置している。

**1 防鹿柵設置の経緯**

県が設置する防鹿柵設置の経緯は次のとおり。

**【平成 30 年度】**

- H30. 7. 11～13 南アルプス食害対策協議会（事務局：長野県伊那市）への現地調査【県】  
・ 設置手法や労力の把握、設置費用、管理、効果等を聞き取り。
- H30. 7. 27 防鹿柵の設置箇所現地調査【県、東北森林管理局合同で実施】
- H30. 8. 27 柵設置（県）  
・ 作業開始前に資材メーカーから設置方法の技術指導を受け、作業を開始。  
・ 岩手県グリーンボランティアや関係機関の協力（23 人）により設置。
- H30. 11. 1 柵撤去（県）

**【令和元年度】**

- R1. 7. 21 柵設置（県） ※河原の坊の継続設置分の網上げ作業
- R1. 7. 22 柵設置（県） ※新規設置分（小田越 2 合目、小田越 200m、薬師岳 300m）  
・ 作業開始前に資材メーカーから設置方法の技術指導を受け、作業を開始。  
・ 岩手県グリーンボランティアや関係機関の協力（25 人）により設置。
- R1. 9. 12 柵設置（県）  
・ 小田越 2 合目に追加設置  
・ 岩手県グリーンボランティアや関係機関の協力（13 人）により設置。
- R1. 10. 24 柵撤去（県）

**【令和 2 年度】**

- R2. 6. 5 柵設置（県）  
・ 令和元年度からの継続分（小田越 2 合目を除く）と県道 25 号線沿いに新規設置。  
・ 岩手県グリーンボランティアや関係機関の協力（26 人）により設置。
- R2. 7. 10、12 柵設置（県）  
・ 小田越 2 合目を令和元年度の範囲から拡大して設置。  
・ 岩手県グリーンボランティアや関係機関の協力（24 人）により設置。
- R2. 10. 28 柵撤去（県）

## 2 設置の概要

令和2年度の岩手県及び東北森林管理局による防鹿柵設置概要は以下のとおりであり、設置の総延長1,490m（岩手県分750m、東北森林管理局分740m）となっている。

	位置	場所	期間	概要	備考
岩手県	A	河原の坊登山道	R2.5.26～10.28	3か所（周囲15m、35m、50m）	H30年新設
	B	小田越2合目	R2.7.10～10.28	1か所（周囲340m）	R1年新設 R2年150m増設
	C	小田越登山口から200m	R2.6.5～10.28	1か所（周囲70m）	R1年新設
	D	薬師岳登山口から300m	R2.6.5～10.28	1か所（周囲40m）	R1年新設
	E	県道25号線沿い（うすゆき山荘より西側）	R2.6.5～10.28	3か所（周囲40m、70m、90m）	R2年新設
	計			9か所750m	
東北森林管理局	ア	門馬握沢登山道	R2.6.4～10.19	2か所（周囲30m、70m）	H30年新設
	イ	河原の坊登山道	R2.5.26～11.11	2か所（周囲50m、150m）	H30年新設 R1年100m増設
	ウ	小田越3～4合目	R2.7.6～10.16	1か所（周囲440m）	R1年新設 R2年290m増設
	計			5か所740m	

## 3 結果

平成30年度以降の取組結果は次のとおり。

### 【平成30年度】

- 防鹿柵は、支柱杭を土中に50cm程度打ち込み、南アルプスと同様に1.8m高の支柱を想定した4mおきに立てて設置した。
- 台風の通過に伴う柵への被害は無く、強風にも耐えられることが確認できた。
- 柵設置後は、柵内への新たな被食は認められなかった。

### 【令和元年度】

- 支柱用杭の抜刺しを繰り返すと裸地化を招く恐れもあることから、支柱用杭を打ち込んだまま冬を越したが、風や雪で折れたり倒れたものはなかった。また、ネットも撤収作業時のまま地面に束ねて置いて支障がないことを確認できた。
- シカの侵入や網への噛み切りの被害は確認できなかったが、緩んだ網のところから、シカが首を入れて、中の植物を食べている様子がカメラに撮影されていた。
- 台風や強風の後、支柱が傾いていたことから、自然公園保護管理員やグリーンボランティアの協力を得ながら、巡視・修復の体制を検討していくことが必要。

### 【令和2年度】

- 標高の低い方から順に雪解け後なるべく早く設置し、設置期間を延ばすことで侵入を防止した。

年度	設置期間
H30	8月27日から11月1日（67日間）
R1	7月22日から10月24日（95日間）
R2	5月26日から10月28日（156日間）

- 防鹿柵の効果は、県立博物館の鈴木まほろ主任専門学芸員の報告「防鹿柵内外の植生モニタリング結果」によると、柵の内部では植生の回復が見られた。
- 設置期間中に強風で支柱が折れたり倒れたものはなかったが、傾きや網のたるみ等があった場合の維持管理のための巡視や修復体制の確保について引き続き検討していく必要がある。



※支柱杭はそのまま、ネットは下で束ねて冬を越えた。